

2024年9月度 中部品質工学研究会 議事録

- 開催日時 2024/9/7 (土) 10:00~16:00
- 開催場所 アイテックインターナショナル
- 会員参加者<敬称略> S:オンサイト出席・L:オンライン出席、欠:欠席、書:書記、休:休会

大見	S	牧野	S	横尾	S	城越	S	伊藤	S	舟山	S	出島	S	水田	S
山中	L	山口(展)	S	黒田	L	鈴木	S	池田	S	山口(直)	S	前田	書	北村専務	L
小西	休	中山	休	李	休	河合	休	則尾	休	杉浦	休	福田	休		

4. 研究会内容

1) 合宿テーマ検討 実験計画法第3版下巻P666事例説明(大見)、利き酒の説明(城越)

実験計画法第3版下巻P666事例説明:喫煙者と非喫煙者のビールの銘柄の識別能力比較について解説があった。特性値が3組以上に分類される計数値の場合、解析には累積法か度数法を用いる。グレードなどの順位がある場合は累積法、ない場合は度数法を用いる。分散分析する際は分類わけされたクラスごとに分けて計算するが、数に偏りがあると数が大きい方に結果が引っ張られるので、クラスごとに重みづけしている。デジタルの標準SN比で解くのが良いと考える。

利き酒の説明:合宿にて計画する利き酒の正式な方法の説明をした。正誤差を二乗和する計算はまさに有害成分のエネルギーであり品質工学らしいと解説した。

2) 合宿官能評価関連テーマ チョコレートの識別力官能評価(山口(直))

チョコレートの識別力の調査をした。

目的:チョコレートのカカオ含有量の違いに関して識別能力を比較する。制御因子:A1:妻、A2:息子。信号因子:M1:カカオ含有量72%、M1:カカオ含有量86%、M1:カカオ含有量95%。方法:カカオ含有量を知らせてM1、M2、M3を食べさせた。そのあと口をすすいだのちに、3種類のカカオ含有量を当てさせた。カカオ含有量1種類当たり10回繰り返し、計30回実験した。結果:A1:誤り率2/30、A2:0/30となった。A2のSN比が無限大になり上手く比較できなかった。また、会場からA2の誤り率を $1/2n$ つまり $1/60$ として検討すると良いとの意見が出た。

3) 合宿テーマ検討

官能評価実験のテーマ選定と制御因子の検討を行った。飲料(酒orお茶)の判別に影響する因子の特定を目的として実験を行う。制御因子は年齢、飲料の好き嫌い、飲料への耐性、・・・。

10月の例会までに飲料を確定し、各役割担当を例会で決定する。

4) 佐藤会長、細井会長補佐と懇談

品質工学会の佐藤会長と細井会長補佐が就任の挨拶に来られ、下記議題についてディスカッションした。

- ・中部品質工学研究会について(会費、中部品質管理協会との関係など)
- ・品質工学会の賛助会員について(財政状況や会員特典、品質工学の社内普及など)
- ・その他

5) 事務局連絡

- ・11/9、10合宿 ・事例、テーマ相談:数課題ストックあり。何かあれば持ち込みOK。
- ・合宿:誰が何を担当するか来月決定する。 ・シンポジウム、業務改善発表大会:前田

舟山さんから2点連絡

- ・品質工学会のQFD/VOCインタビューを受けていただける方募集:山口展さん、前田
- ・品質工学国際大会(ICRQE)参加の報告